『西洋の書物工房』読書会　第15回

2015.11.26.

第五章　モロッコ革を求めて

一．『パンタグリュエル物語』のモロッコ革

* モロッコ革とは：

『皮革産業用語辞典』（皮革工業新聞社, 1974）から

・一版には、タンニンで鞣して手揉みした山羊革（Goatskin）を指す？

・辞典類によって揺れがあるよう

・他の素材の革との比較

『西洋の書物 : エズデイルの書誌学概説』（雄松堂書店, 1972.7）から

* 邦訳版は原著第4版の訳
* 英語版は2001年の第6版が最新

・モロッコ製が特に優れているというわけではない

・羊皮製の粗悪なモロッコ革への言及

・素材と並んで「しぼ（grain）」が重要な特徴

・偽モロッコ革：しぼを型取りして（羊皮をはじめとする）軟質な革に押し当てて作る

（羊皮（Sheepskin）は保存を前提にしない印刷物にのみ使うべきとされている）

・革の退化と保存への対処が必要←熱や光を避けつつ定期的な革なめしを行うこと

参考

『モロッコ革の本』（筑摩書房 , 1975.10）

→栃折久美子さんのエッセイ集　ルリユール工房への留学の記録

「特有の美しいしぼのあるモロッコ革の生地そのままのシンプルなものだったが、それだけにいっそう技術そのものが生きる。ごまかしがきかない」（80頁）

担当：　宮田